

福島県環境創造センター 交流棟に係る展示の考え方(案)

—— ふくしまの子どもたちが安心して輝く未来を創造するために ——

2014年1月

福島県生活環境部
環境創造センター整備推進室

■展示の整備方針

交流棟コンセプト（平成25年10月）

環境回復・創造の“学びと発信”を目指して

交流棟は、
子どもたち・県民とともに
ふくしまの未来を創造する“対話と共創の場”です

展示で実現する“対話と共創”とは・・・

対話

展示体験や運営をととして県民の不安や疑問に答え、放射線や環境問題を身近な視点から正しく「知り」、環境の回復と創造への「意識」を深めることを目指します。

共創

学びや体験から得た「知識」、深めた「意識」を、子どもたち、県民や様々な団体が共有し、それぞれの立場から福島未来を考え、創り、発信するきっかけとなる場を目指します。

子どもたち・県民目線から
ふくしまの環境を
知り、創り、発信する
“ふくしま”のみらい

■事業方針など整理と重視するポイント

「交流棟に係る展示・運営事業の考え方」(平成25年10月)より

展示事業の方針

内容

福島を
「見える化」

ストーリー

福島未来を
「創る」力の育成

手法

体験と
進化する展示

空間

対話と
交流の醸成

教育庁の考え方

児童生徒・県民利用で重視すべき事項

生活

学級活動や健康教育
を重視した指導展開

基礎
情報

日々の暮らしに
関係する基礎知識

持続的
育成

自ら考え判断し
行動する力の育成

「交流棟に係る展示・運営事業の考え方」(平成25年10月)より

運営事業の方針

内容

年齢に応じた
実践力の養成

プロ
グラム

成長に合わせた
持続性

連携

他館や関係
団体との連携

発信

回復と創造を
国内外に紹介

ポイント1

ふくしまの環境、そして知見を
国内外、そして後世にしっかりと伝える

ポイント2

子どもたち・県民目線の
疑問や不安への回答

ポイント3

環境回復と創造の実現に向けた
目標や活動の場の提供

■展示整備の3つの方針

方針1

ふくしまの環境の“これまで”と“今”を
国内外に強くメッセージする

環境回復の最前線である福島県として
3.11以降の環境に関する出来事とその経過を後世に伝え
現在の環境を「見える化」し発信します



方針2

“生活目線”から
放射線や環境創造を体験化

子どもたちとその保護者や県民など
皆が疑問や不安に感じる内容を理科等だけではなく
身近な目線から紹介、体験化します



方針3

ふくしまの“未来像(=目標)”の共有・発信と
交流の機会・場の醸成

体験をととして得た知識・意識を実践することで
実現可能となる未来像を県民が共有・発信するとともに、
実現に向けて不可欠な交流の場を提供します



Action! & Communication!

■展示エリア

知る

福島モニタリングスクエア

体験する

放射線ラボ

体験する

環境創造ラボ

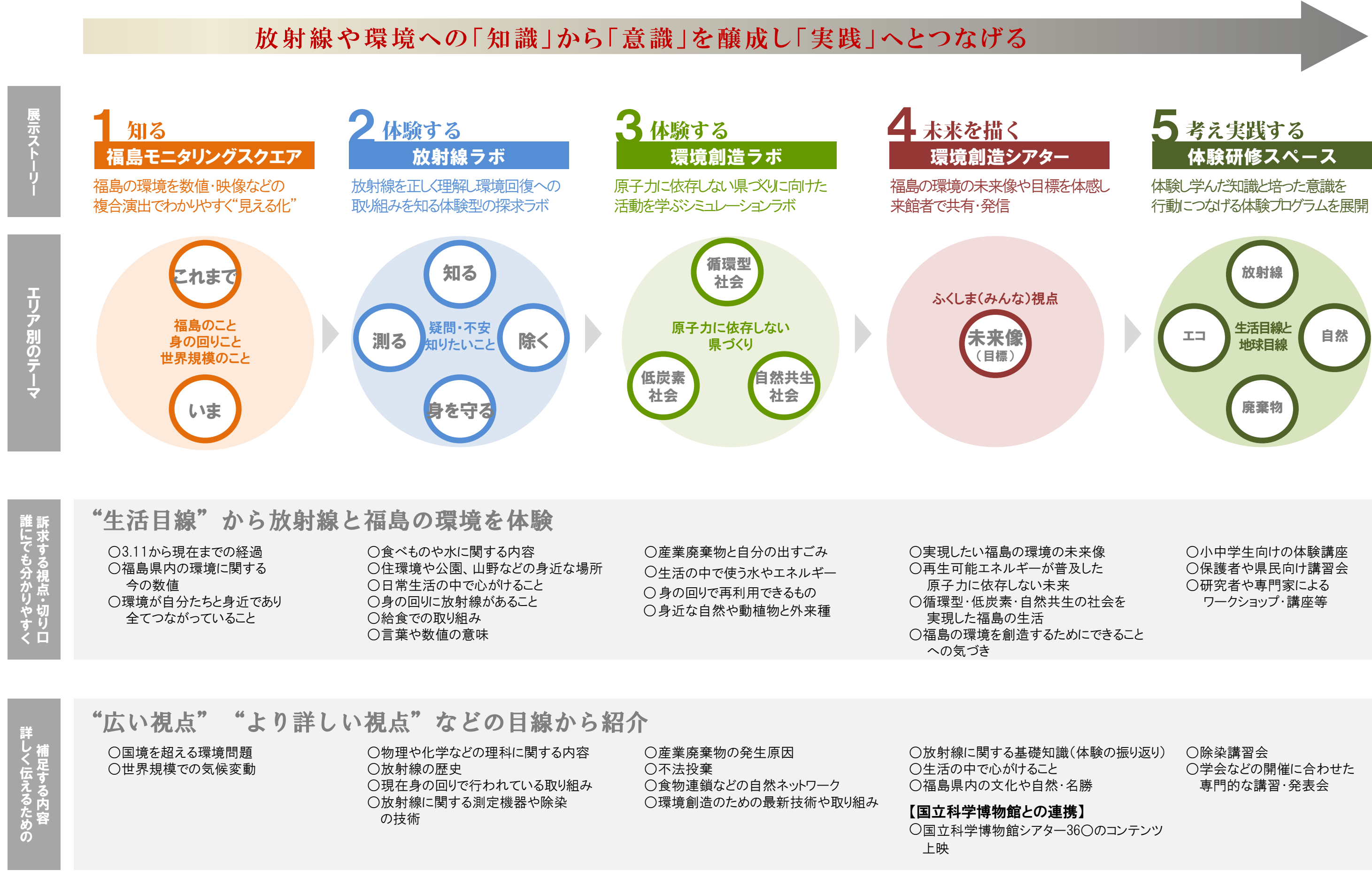
未来を描く

環境創造シアター

考える・振り返る

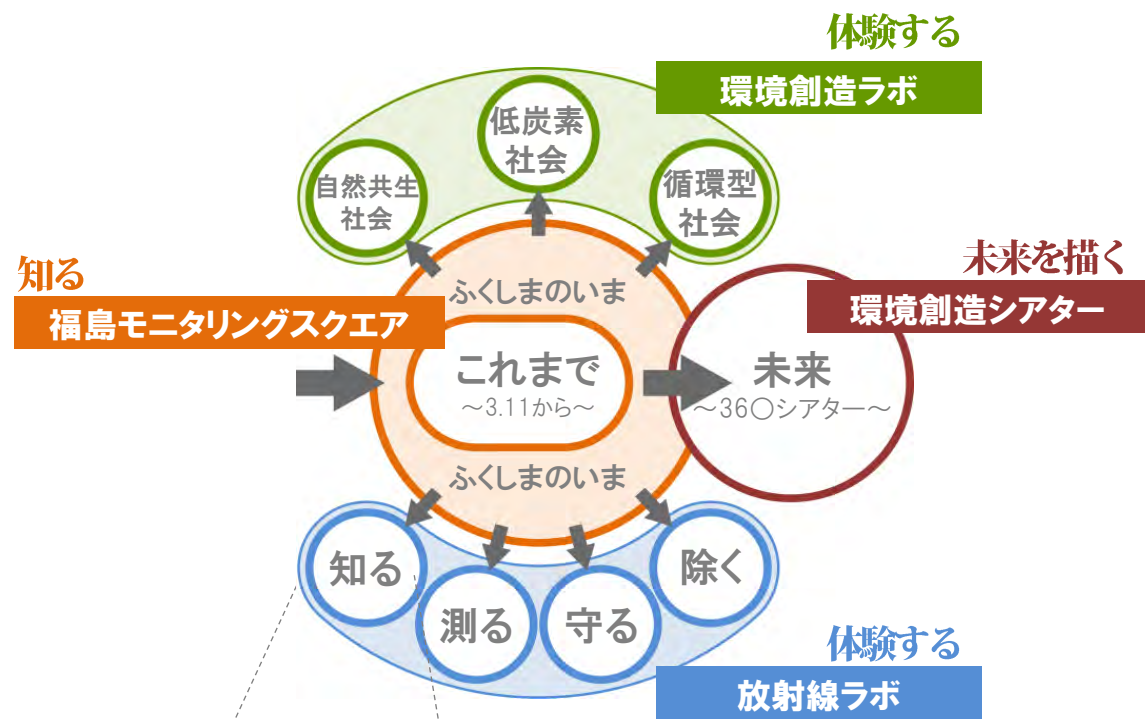
体験研修スペース

■展示ストーリーとエリア別のテーマ構成



■展示構成概念図

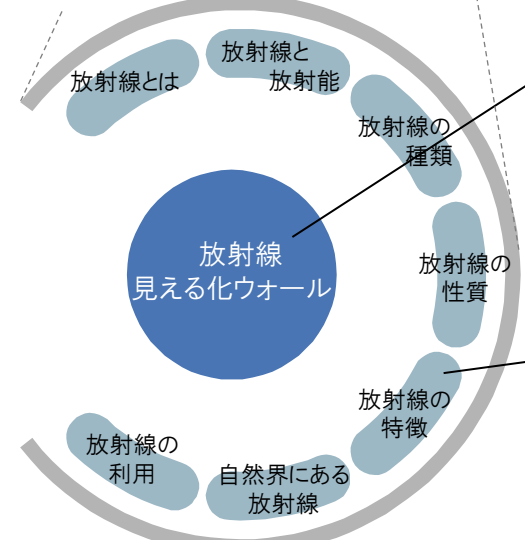
- ポイント 1 展示室エントランスから一直線に伸びる「ふくしまの3.11から」の視線の先に、ふくしまの未来を描く「環境創造シアター」を配置。
- ポイント 2 数値やビジュアルで示す「ふくしまのいま」を導入に「放射線ラボ」と「環境創造ラボ」の各テーマへと誘引する構成を採用し団体来場にも対応。



■各テーマの展示の構造

生活などの身近な目線から体験する「導入展示」と各テーマに関する情報を楽しく学ぶ「探求展示」で構成

例)知る



- 導入展示**
- 各テーマごとに子どもたちや県民の関心が高い生活目線の体験展示。
 - 各テーマのガイダンスとして機能し最も伝えたい内容を体験化。
- 探求展示**
- 各テーマに関する正しい知識や生活に関する情報を映像やグラフィックなどで紹介

■展示ゾーニングイメージ



ふくしまだからこそ伝えることができる「環境回復・環境創造」を県民とともに国内外に発信する展示を目指します

1 知る

福島モニタリングスクエア

福島にしか発信できない強い意志・決意の表明と
事故から回復への歩みの記録を後世に伝えるとともに
ふくしまの今を知ってもらう全体の導入展示エリア



例) ふくしまの3.11から 「ふくしま環境創造新聞」/「3.11クロック」

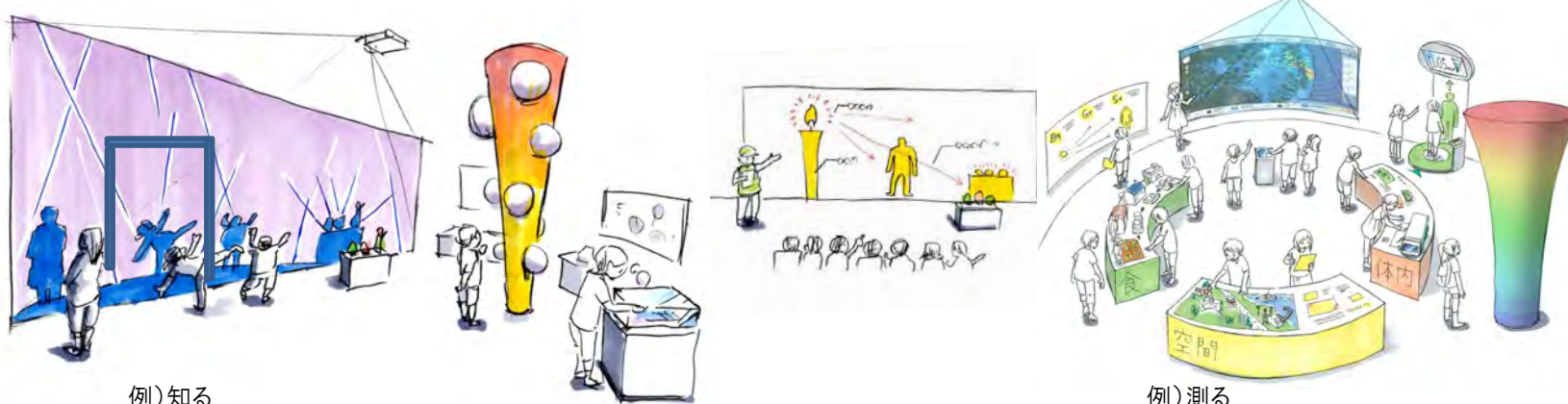


例) ふくしまの3.11から 「3.11からの歩み」

2 体験する

放射線ラボ

「知る」「測る」「身を守る」「除く」という4つの
テーマで体験をとおして、
放射線を正しく知ってもら
う展示エリア



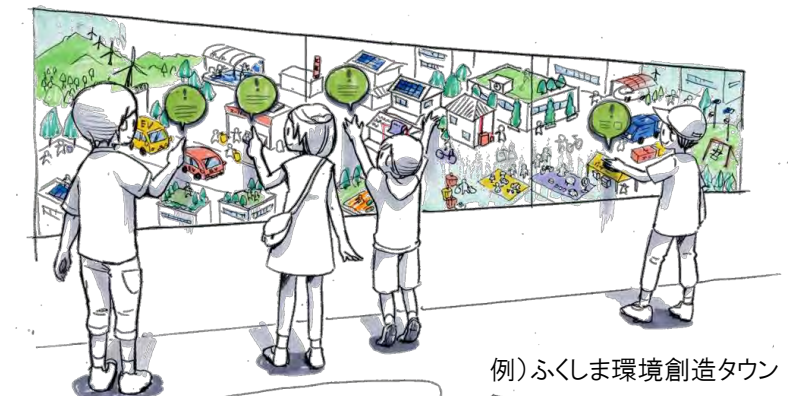
例) 知る

例) 測る

3 体験する

環境創造ラボ

原子力に依存しない県づくりへの取り組みはもう生活の中に
ある(始まっている)ことを体験するシュミレーションラボ



例) ふくしま環境創造タウン



例) ふくしま環境計算機

4 未来を描く

環境創造シアター

福島の実環境の未来像や目標を体感し、来館者で共有・発信する
ことで、「環境回復」「環境創造」への意識を醸成する展示エリア



国立科学博物館 THEATER 360 との連携も推進
National Museum of Nature and Science

国立科学博物館のコンテンツ上映のほか、
企画展示や展示エリアなど連携を進めます。